

京都大学教育研究振興財団助成事業 成 果 報 告 書

平成31年3月29日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 理学研究科

職 名 理学研究科長

氏 名 平野 丈夫

助 成 の 種 類	平成30年度 ・ 社会連携助成			
事 業 名	理学への小・中学生の知的好奇心増進事業			
実 施 期 間	平成30年5月29日 ～ 平成31年3月8日			
実 施 場 所	京都府内の小・中学校、ZEST御池、ガレリア亀岡、けいはんなプラザ			
参 加 者	総 数 1637名超。	内 訳 おもしろ科学体験(京都府教育委員会と連携)537名 京都市立小学校・中学校との連携 100名超 ウォークインサイエンス 1000名超		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(小冊子)			
会 計 報 告	事業に要した経費総額	3,352,689円		
	うち当財団からの助成額	2,000,000円		
	その他の資金の出所	<small>(機関や資金の名称)運営費-教育-戦略・重点的経費、運営費-研究-教育研究事業費、運営費-教育-教育研究事業費</small>		
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	物品費	404,337	252,735	
	旅費交通費	83,610	40,990	
	給与・謝金等	1,577,000	1,135,600	
	通信運搬費	0	0	
	印刷・製作費	273,024	199,584	
賃借料・設備使用料等	0	0		
その他	1,014,718	371,091		
合 計	3,352,689	2,000,000		
当財団の助成について	<p>(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今年度、台風の影響で2日(3か所)でのイベント実施を予定日にはすることができず、 年初には計画していなかった貸切バスのキャンセル料が発生しましたが、 財団から助成いただいていたおかげで、なんとか予算を工面でき、2日(3か所)分とも延期して実施することができました。 ありがとうございました。</p>			

成果の概要／平野丈夫

名称：理学への小・中学生の知的好奇心増進事業

概要：

全 16 か所で、京都府教育委員会との連携事業や京都市立小学校・中学校との連携で、小学校等を訪れてのおもしろ科学体験や、ZEST 御池でのウォークインサイエンス等を実施して、理学への知的好奇心の増進を行うことができた。

1. 事業の日時等

(1) 京都府教育委員会との連携

具体的には、下記の 9 ヶ所で、おもしろ科学体験を実施することができた。537 名の参加者があった。

5月19日(土)	八幡市立八幡小学校	83人
9月7日(金)	亀岡市立城西小学校	56人
9月7日(金)	亀岡市立亀岡小学校	99人
9月13日(木)	舞鶴市立三笠小学校	72人
2月5日(火)	京田辺市立田辺東小学校	89人
2月19日(火)	京丹波市竹野小学校	28人
2月19日(火)	京丹波市下山小学校	24人
3月5日(火)	伊根町立伊根小学校	16人
3月8日(金)	亀岡市立南つつじヶ丘小学校※	60人

(※京都大学百周年記念時計台で受入)

(2) 京都市立小学校・中学校との連携

下記の日程で 4 ヶ所で理学普及活動を実施できた。100 名を超える参加者があった。

10月27日(土)	午前：京都市立第四錦林小学校、午後：京都市立高倉小学校
1月12日(土)	京都大学総合博物館(午前：第四錦林小学校来場。午後：一般)
2月6日(水)	京都市立近衛中学校 91人

(3) ウォークインサイエンス

下記の 3 つの会場にも、おもしろ科学体験を出展した。特に、Zest 御池では、人通りの中での実施で、このイベント以外の目的で道を通っている人も呼び寄せることができ、より一層幅広い層に理学普及をすることができた。各回とも、数百名程度の多くの方がブースを訪れ、合計で 1000 名を超える参加者があった。

8月12日(日)	ウォークインサイエンス京都市役所前地下街 Zest 御池	来場多数
12月1日(土)	地域ふれあいサイエンスフェスタ 2018 ガレリアかめおか	来場多数
1月26日(土)	けいはんな科学体験フェスティバル	来場多数

2. 内容

「おもしろ科学体験」においては、京都府教育委員会にお願いして、小学校との連絡を一括して担っていただいている。小学校では、長机 12 台を体育館や多目的スペースに準備していただき、各机に大学生スタッフが一人つき、同時に 3 名程度の小学生を担当する。小学生は、自らが好む実験ブース（ブース内容の詳細については別紙参照）にまわる。

大学生スタッフは、100 名を超える学生スタッフ（内、積極的な参加者は約 20 名）が社会交流室のメーリングリストに参加しており、イベント実施日に都合がつく学生さんが参加してくれている。

3. 成果

多くの小学生・中学生に対して理学への知的好奇心の増進を行うことができた。さらには、多くの大学生スタッフが運営に携わることで、理学普及のための共同体創設に向けての一步を踏み出すことができた。

さらには、京都大学と京都府教育委員会や学校との連携を強化することができた。